報道関係各位
プレスリリース

2025 年 4 月 11 日
株式会社 Liberaware

GPS の届かない下水道内での点検利用促進のため 新しい通信方式による小型ドローン位置測定の実証に成功

ー地下インフラ点検の課題解決へー

株式会社 Liberaware（本社：千葉県千葉市、代表取締役：関 弘圭、以下「当社」）は 2025 年 3 月 28 日、神戸市の協力の元、株式会社 TKK ワークス（本社：大阪府大阪市、代表取締役：前田 和則、以下「TKK ワークス」）と共同で小型ドローンを活用した距離計測技術の実証実験を行いました。

本実証は、下水道管路内の点検において、ドローン挿入地点と対象物との距離を測り、下水道管内の状況を把握するためのより高度な情報取得を可能にします。



■背景と目的

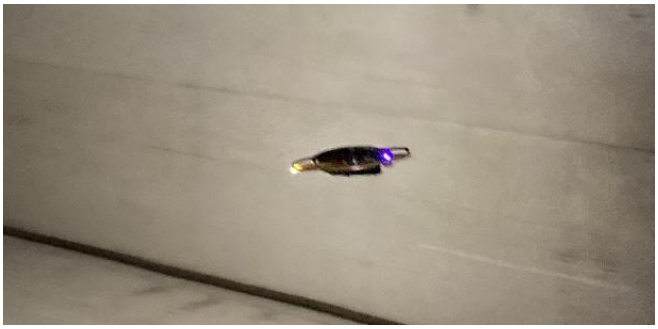
2025 年 1 月に発生した埼玉県八潮市の道路陥没事故では、当社の開発した狭小空間点検ドローン「IBIS2」を用いて、事故発生以降調査困難であった下水管の内部調査を行い、調査当日にキャビンらしきもの（※後日、専門家の検証を経てキャビンと断定）を発見しました。

下水道管路内の調査では、ドローン挿入地点と対象物との距離が調査活動において非常に重要な情報となります。今回の実証実験では、IBIS への応用が検討されている新しい通信モジュール、及びその他の測定方法を用いて、距離計測が可能であることを確認しました。

■実証本概要

場所　　：兵庫県神戸市のトンネル内
日時　　：2025 年 3 月 28 日（金）

参加者　　：株式会社 Liberaware、株式会社 TKK ワークス、神戸市
提供（一部製品）　：　OM デジタルソリューションズ株式会社
使用機材（一部製品）：
・OM SYSTEM OM-1 Mark II
https://jp.omsystem.com/product/dslr/om-omd/om/om1mk2/index.html
・M.ZUIKO DIGITAL ED 150-600mm F5.0-6.3 IS
https://jp.omsystem.com/product/lens/zoom/mzuiko/150-600_50-63is/index.html



距離計測の際に飛行中の IBIS2

■今後の展開

本実証の成果を踏まえ、当社は IBIS への応用に向けて開発を進め、下水道点検の現場でより広く活用されることを目指します。

今後も、IBIS が下水道をはじめとしたインフラ点検・災害対応の現場で活用されるようアップデートを行い、関連自治体や機関等と更なる連携を進めてまいります。

▼株式会社 Liberaware について

株式会社 Liberaware は、「誰もが安全な社会を作る」をミッションに掲げ、世界でも珍しい「狭くて、暗くて、危険な」かつ「屋内空間」の点検・計測に特化した世界最小級のドローン開発と、当該ドローンで収集した画像データを解析し顧客に提供するインフラ点検・維持管理ソリューションを行っております。弊社は、ビジョンでもある「見えないリスクを可視化する」ことに邁進し続け、人々に安全で平和な社会をお届けします。

会 社 名：株式会社 Liberaware（リベラウェア）
代 表 者：閔弘圭（ミン・ホンキュ）
所 在 地：千葉県千葉市中央区中央 3-3-1
設　　立：2016 年 8 月 22 日
事業内容：
・ドローン事業：ドローン等を用いたインフラ・プラントの調査・点検・測量サービス、及び当社プロダクトである IBIS をはじめとしたドローン等を販売・レンタルするサービス
・デジタルツイン事業：ドローン等により取得したデータの画像処理技術等により、映像、3 次元データ、異常検知に資する情報等をデジタル上に構築・提供するサービス
・ソリューション開発事業：当社の技術力やノウハウを基にハードウェアからソフトウェアまで幅広いソリューションを提供する受託開発事業

U　R　L：https://liberaware.co.jp/

〈本件に関するお問い合わせ先〉
株式会社 Liberaware　広報：前
TEL：090-9019-9057 / 043-497-5740 MAIL:pr@liberaware.com